

## 今時の卒業式

3月1日、札幌市内の私立高校から卒業式のご案内をいただいたので、出席することにしました。

高校の卒業式といえば、自分の卒業式以来ですから遙か昔の記憶しかありません。

私が伺った学校は、市内でも生徒指導が難しいといわれている学校ですから、いったいどんな卒業式になるのだろうと、多少の心配をしながら出席いたしました。

しかし、卒業式は予想に反して淡々と進行し、予定の1時間半で何事もなく終了しました。その意味では、半分は拍子抜けという感じであり、後の半分はほっとしたというところでしょうか。

一口に卒業式といっても学校によって随分と違うでしょうから、あくまでも私が出席した学校についてでしかありませんが、感じたことを幾つかお話ししたいと思います。

一点目は、学生の髪の毛についてです。

服装のことは、今更いっても仕方ありませんが、もう少し何とかならないかとは思いますが、同時に感じますのは、男子も女子も、殆どの学生が髪伸び放題という感じで、これは如何なものかと思えます。

これは、学校のせいというよりも保護者の気遣いの問題でしょうが、式の前日ぐらいには散髪して気持ちも新たに式に臨んで欲しかったなあと思っています。かなり、親父臭いですけど。

二点目は、先生方に生活指導を含めて相当苦勞をかけたであろう生徒たちですが、でもやっぱり卒業式は嬉しいんだな、そんなことが彼らの表情から伝わってきました。

涙を流して感激、なんていう姿は全くありませんでした。これも、今時なのでしょうか。

また、学生が皆、来賓席に向かって一礼をして自席に戻る姿は、当然のことですが気持ち良く見ることができました。

三点目は、大きな国旗が舞台正面に掲揚されておりました。また、君が代斉唱（本来は、国歌斉唱というべきですが）が行われたことも良かったと思いますが、残念ながら学生の口は閉じたままでした。

学生が声を出して国歌を斉唱する、この当たり前のことが当たり前にできる学校であって欲しいと思います。

以上、幾つか感想を申し上げましたが、学校にとって大事なことは、卒業した学生たちが卒業後しっかりと自分の足で立ち、自立して生きていけるかどうかであり、3年間教育実践を重ねてきた真価が問われるところでもあります。

学校としては、卒業後のことまで責任は負えないというところでしょうが、しかし、卒業した学生たちの生き様は、教師の皆さんにとって、自分の教育実践が如何なるものであったかを映し出す鏡であるということからは、逃れられないことを知るべきです。（塾頭 吉田 洋一）